



吉崎別院の輪番交代の「ご挨拶」についてお知らせいたします。

6月1日より吉崎別院輪番を拝命いたしました松本隆英でございます。歴史ある吉崎別院の輪番ということで、身の引き締まる思いです。

現代社会は一極集中、少子高齢化、核家族化だけでなく特にコロナ禍以降、人々の意識や価値観の変化もあり、お寺を取り巻く状況は大きく変わってきていますが、これまで吉崎別院をおまもりいただいた僧侶、門信徒の皆さまとともに別院の護持と繁栄に精一杯つとめさせていただく所存です。

皆さまのご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

輪番交代の「ご挨拶」



【NO.8】2025年 冬
本願寺吉崎別院だより よっさきさん

発行

本願寺吉崎別院

〒922-0679
福井県あわら市吉崎1-201
電話/FAX: 0776-75-1903

「蓮如さんごう」 支援の輪広がる

吉崎別院の財政基盤を支援するため、令和5年度に活動を開始した新しい護持団体「蓮如さんの吉崎西別院讃仰会（略称 蓮如さんごう）」。発足から一年あまりが経過し、その支援の輪が着実に広がっています。

今年3月には、全教区の門徒宗会議員の皆さまがご入会くださったほか、多くの僧侶宗会議員の皆さまにも、ご自坊の宗教法人会員として、または個人会員としてご入会いただきました。現在の会員数は、個人会員109名、宗教法人会員42名、企業会員2名を数えるまでとなりました。

また、令和5年度・6年度には「蓮如さんごう」様より吉崎別院へそれぞれ50万円のご寄付をいただき、誠にありがとうございました。

運営遅延のお詫びとご入会のお願い

一方で、事務局担当者が7月1日に境内除草作業中の事故により長期入院をすることになり、現在、運営に遅延が生じております。ご入会の皆さまにはご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、深くお詫び申しあげます。一日も早い正常な運営への復帰に向け、努めておるところです。

当会では、引き続き吉崎別院の護持発展のため、皆さまのご入会をお待ちしております。詳しくは当別院までご連絡ください。

甘酒でほっこり年越し 吉崎の除夜の鐘と初参り

元旦会（元旦の法要）と、左記のとおり除夜会（除夜の法要）と、除夜会の後、当別院の除夜の鐘をお突きいただけます。続いて元旦会ではお正信偈を日常の勤行として制定された地で、新年の最初にご一緒に勤めをいたしましょう。甘酒をご用意してお待ちしております。ぜひともお参りください。

【除夜会】中宗堂 午後10時半より
【元旦会】本堂 午後11時より（重誓偈作法）
午前0時より（正信偈行譜）
中宗堂 本堂終わり次第

蓮如さんの吉崎西別院讃仰会



住所：〒922-0679 福井県あわら市吉崎1-201 本願寺吉崎別院内

電話/FAX: 0776-75-1903 メール：info@rennyo-sangou.com

ウェブサイト：<https://rennyo-sangou.com>

銀行口座：福井銀行 大聖寺支店 普通口座 531-6033589

口座名 蓮如さんごう（レンニヨサンゴウ）

地震に強い
金属屋根の北川

KITAGAWA
〒918-8543
福井県福井市問屋町2-65
TEL 0776-22-2694
FAX 0776-21-8186



(有)庭研ふくい

〒910-2161
福井県福井市脇三ヶ町23-2
電話・fax 0776-41-3901



蓮如上人のお言葉より

前々住（蓮如）上人御病中に、兼譽・

兼縁御前に伺候して、あるとき尋ね申

され候う。冥加ということは何とした

ることにて候うと申せば、仰せられ候

う。冥加に叶う

というは弥陀をたのむことなるよし仰せられ候うと

（蓮如上人御一代記聞書 第二〇六条）

【現代語訳】蓮如上人が御病中のお見舞いに兼譽（蓮如上人第六男）さまと兼縁（同第七男）さまが御前にうかがいなされて「冥加とはどんなことでしようか」とお尋ねになりました。それに対して「冥加に叶うとは阿弥陀さまをたのみとすることである」と仰せになられたということです。

『蓮如上人御一代記聞書』を拝読しておりま
すと、上人が折にふれて「冥加」という言葉を使
われていてことに気づきます。「冥加」とは、私
たちの目には見えない「仏さまのお力添え」や「ご
加護」といった意味の言葉です。

しかし、不思議なことに、この「冥加」という
言葉は、浄土真宗の教義をあらわす言葉ではありません。
親鸞聖人の御著書はもとより、上人自ら
がお書きになった『御文書』の中にさえ、この言
葉は出てこないのでした。しかし「生のお言葉」と
して上人のおそばにおられた方々が書き留めた上
人の語録の中には、たびたび出てくるのです。

だからこそ、いつも上人のそばにおられた兼譽
様や兼縁様といったご子息たちでさえ、ある時あ
らためてお尋ねになつたのでしょうか。「お父上、

あなたがいつもおっしゃる冥加とは、冥加にかな
うとは、いったい何のことでしょうか」と。

先に掲げた今回のお言葉は、まさにご臨終も間
近というご病床での、そんなやり取りを記したもの
です。ご子息方の問いかに、上人ははつきりと、「
それは、阿弥陀さまをたのむことだ」とお答え
になりました。

「弥陀をたのむ」とは、阿弥陀さまのご本願の
お救いをこそ、そのまま「たのみ」とすること、
つまり私たちが阿弥陀さまから「信心」をいた
くことです。上人は、「冥加」という言葉に、「ご
利益」や「幸運」といった意味ではなく、「お念
仏をいたたくこと」という、浄土真宗の教えのか
なめともいえる、それほどまでに大きな意味を込
めておられたのでした。

同じご病床の中でご自身の若く貧しかった頃の
困難な生活から、楽に生活をしていける現在の豊
かなり様までを振り返られて昔語りをなさつて
おられますのが、上人は折々の思い出の中にたびた
び「冥加」という表現を使つておられます。今ま
で出あい別れた方々、または「冥衆」と呼ばれる
森羅万象にひそむ定かには知られないような存在
や、目の前にいたたく食事や着物、廊下に落ちた
紙切れの中からさえも、そのすべてのご縁の中に、
如來さま親鸞さまのお導きとして、ありがたいご
恩として「冥加」を味わつておられました。

逆境の中でも「冥加」を感じつつ暮らした昔を

懐かしみ、順境の中でもすれば忘れがちになる
「冥加」の大切さをご子息方にお諭しになる上人
のお姿は、「もつと良いご加護がありますように」
と新たに願うのではなく、「冥加にかなう」ことの
中に幸と不幸の本質を見出させていたのだと思わ

れます。

「禍福は糾える縄の如し」と申します。幸運には必ず不幸の種を宿し、不運には必ず幸福の種を宿す。幸運と不運を超えたところにこそ私の求められる幸福が存在しているのではないでしようか。幸運のみを追い求め、たとえそれらがすべて実現しつづけたとして、幸福になれる保証などどこにもないのです。

今、この私の上に、すでに仏さまからはたら
きかけが「冥加」として様々な形と姿で私に届い
ているのだと、注意深くいただき、敬い、そこに
聞いていく。それが、蓮如上人の「冥加にかなう」
生き方であつたのだと、味わうのでござります。

ご懇志のお振替 / お振込

【ゆうちょ銀行からのお振替】

記号・番号：00780-7-4561

【ゆうちょ銀行以外の金融機関】

ゆうちょ銀行 ○七九店 <当座>
0004561

※ yossaki@mx3.fctv.ne.jp宛にお名前とご住所の
ご連絡をお願いいたします。

